



### 学校教育目標 「学び合い」 「個性」 「自立」

- |  |     |
|--|-----|
| (1) 生きるための基本的な生活習慣・学力を身につける生徒を育てます。      | 【知】 |
| (2) 自分のまわりの人とふれあい、お互いを大切にする心を育てます。       | 【徳】 |
| (3) 自他の生命を尊重し、健康でたくましい体を育てます。            | 【体】 |
| (4) 社会の一員として自覚をもち、自分の生き方を決められる生徒を育てます。   | 【公】 |
| (5) 体験を通して自分を豊かにし、社会の変化に柔軟に対応できる生徒を育てます。 | 【開】 |



## 卒業に寄せて

校長 井上菜穂子

耳を澄ますと、春の足音が聞こえてきます。足音は大きくなったり、小さくなったり、でも確実に近づいてきています。

いよいよ卒業の日となります。小学校、中学校と過ごした9年間、地元で学んだ「学び舎」と、仲間と一緒に歩いた、慣れ親しんだ通学路ともお別れです。

何人かの3年生とお話したとき、3年間の一番の思い出は？と聞くと、「1年生のときの〇〇です」と答えた人も何人かいて、そうか…この二年間、行事らしい行事をあきらめて過ごした子たちなんだなあ、と切ない思いになりました。

でもそう話しながら、そこには笑顔があり、「行事は確かに残念でしたが、いろいろ楽しかったです」と言って、中学卒業後への明るい期待や希望の言葉もあり、逆に励まされた思いでした。

こんな状況を、誰が予想できたでしょうか。まるで、未来を舞台にするSF映画や小説の中の出来事か、と思いながら、それにすら当てはまらないような、何とも言えない「不条理さ」さえ感じています。よく「やまない雨はない」とか「明けない夜はない」という言葉で、現状を耐え忍ぶことを表現しますが、いつかやむの？いつなら明けるの？と、疑いの気持ちももち始めています。

そんな中での卒業となり、もっといろいろしてあげたかった、という思いでいますが、変わらない皆さんの笑顔や元気な様子に、きっとこれからもいろいろなことを乗り越えていってくれるだろう、という気持ちにさせられます。

これまでの仲間やこれからの友人を大切に、生き生きと輝く未来を自らの手でつかんでほしいと願っています。本日は「雲外蒼天（うんがいそうてん）」というお話をします。よろしく！





## 〈卒業生 別れの言葉〉

私は毎年、桜の花びらを見る時に春の訪れを強く感じます。桜の季節は、もう、すぐそこまで来ています。

三年前の春。私たちは、この田奈中学校に入学しました。新たな場所に行く不安や心配を抱えた私たちを、上級生が優しく迎えてくれた日が、つい昨日のこのように思い出されます。振り返ればこの三年間、いろいろなことがありました。

入学間もない四月。南足柄公園のPAA。初めての校外学習。クラスの団結力が問われる数々の難しいミッション。当時クラスメイトの顔と名前も一致していない中の活動は、不安もありましたが、知らない者同士が手を取り合うという新鮮さがありました。全てのミッションをクリアしたとき、「絆を作り上げるのに時間は必要ない。」ということを知りました。新たな出会いの不安は、この時一瞬で喜びに変わりました。

初夏。中学校で初めての体育祭。全学年が勝利というひとつの目標を目指すことの楽しさを、肌で感じました。

初めての夏休み。多くの人が部活動に明け暮れました。再び学校が始まると、クラスメイトからは、自分の部活の顧問がいかに怖いか、練習がどんなに辛いか、腰が痛い、腕が筋肉痛だと、いろいろな声が聞こえてきました。しかし、その顔は、辛さを乗り越えた誇らしさに満ちていました。

秋。文化祭。初めてで、今となっては最後になってしまった合唱コンクール。どのクラスも一生懸命練習を重ね、最優秀賞を目指し、心を合わせました。上級生が中心となって作り上げた全体会では、みんなが同じものを見て大声で笑いました。

一年が終わる頃には、入学当初の不安などがすっかり消え去り、楽しく、不自由なく生活し、次の年への抱負や新たな行事への期待、後輩ができる喜びなど、進級に向けて期待に胸を膨らませるようになりました。

そんな矢先、突如現れた新型ウィルスは、私たちの生活を一変させました。三か月にわたる休校、分散登校、マスクをつけた生活。これから先どのようにしていけばよいのか、先の見えない不安を覚えました。ここからの生活は、常に「感染症対策」が欠かせないものとなりました。

二年の体育祭。体育祭実行委員や先生方が考えてくださったプログラムは、思った以上に盛り上がり、次の行事に期待する気持ちも生まれました。

二月に行われた文化祭も、全校で実施することはできませんでしたが、テレビ放送を用いた新たな形は、今までとは違う楽しさがありました。有志団体の発表、劇、先生方によるダンスなど、いろいろな制約を忘れ、笑いころげました。

そして迎えた三年生。最高学年として迎えた体育祭は、中学校最後の年ということもあり、過去一番とあってよいほどの気合を入れて臨みました。騎馬戦の作戦を丁寧に話し合い、新しい応援歌を考え、当日も全力を出し切りました。閉会式で得点板にひとつずつ数字が入り、最後にチームの総合優勝を確認したとき、足はすでに重く、声は枯れ、自分がどんなに疲れているか、初めて気がつきました。これほど全力を尽くした体育祭は初めての経験でした。

そして、最後の文化祭。ようやく実施可能になった文化祭を何とか盛り上げたいという強い思い。ライトパフォーマンスの一体感は、赤学年が大切にしてきた「絆」を形にしたものとなりました。私たちの学年目標である「赤道」が完成に近づいていると実感しました。

しかし、こうして振り返ってみると、私たちが経験した行事がいかに少なかったのかと、そのことに驚かされます。自然教室、修学旅行、代わりに実施されるはずだった鎌倉遠足。体験するはずだった長野の生活、キャンプファイヤー、友達との夜の会話。奈良の大仏、京の街並み、鎌倉の食べ歩き

…。失ったものはたくさんあるのだと思います。それなのに、今、私たちの心に喪失感がないのは、それらの体験や行事に負けないくらい、毎日の生活が楽しく、印象深いものだったからなのだと思います。

私たちの学年は、とても明るく、元気がある学年です。先生方から「動物園」といわれるほどに…。今、楽しかったと思える三年間を送れたのは、そんなみんなのパワフルさがあったからなのだと思います。

今年は受験という一番大きな自分との闘いもありました。それを乗り越えるために、多くの人に支えてもらいました。

両親は、とてもわがままで、時には反抗することもある私に、毎日弁当を作り、私の生活を支えてくれました。

先生方は、時に優しく、時に厳しく、私たちを教え、導いてくださいました。

そして、何より私を支えてくれた友だち。楽しいことだけでなく、この三年間には嫌なことや苦しいこともありました。そんな時、話し相手になってくれたことが何よりありがたかった。学校に来て、友達と会話をするだけで気を紛らすことができました。昼休みには外で全力で遊びました。共に遊ぶ仲間がいてくれたから、本当に楽しかった。またどこかで会ったら、中学時代の話を楽しみましょう。

最後に、在校生の皆さん。あなたたちがいてくれたから、私たちはいろいろなことを実現することができました。田奈中学校の魅力は、何といたっても生徒数が多いことだと私はおもっています。人数が多ければ、その分、いろいろな見方を知ることができるのです。大きな集団であることを利点として、一日一日を大切に送ってください。大きなことにとらわれず、小さな問題にもしっかりと目を向けていってください。

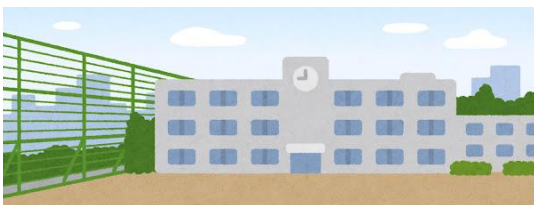
田奈中学校をよろしく申し上げます。

私たちは、今日、田奈中学校を卒業します。田奈中学校で学んだことを胸に、一人ひとりがそれぞれの場所で輝けるよう、精一杯頑張ります。

最後になりますが、今日は私たちのためにこのような式を挙げていただき、ありがとうございました。保護者の皆様、地域の皆様、先生方。今まで私たちに関わってくださった全ての皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

令和4年3月9日

卒業生代表





## 〈卒業生に贈る言葉〉

冬を惜しむように、まだ寒さが残る今日この頃ですが、それでも少しずつ、風が吹き始め、桜の枝にも、小さな赤い芽が付き、あと少し先に美しく咲き誇ろうとする、準備を始めています。

3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんにとって、どのような3年間になったでしょうか。

皆さんが1年生の冬に、今も私たちを取り巻いている、この コロナ禍が始まりました。すぐ目の前にあったはずの自然教室の延期、中止。休校、家庭学習、分散登校…。それまでは想像することもなかった、本来とは違う環境の中での学校生活だったと思います。そのような状況の中でも、私たちは先輩方に、委員会や部活動などで、とてもお世話になりました。委員会では、私たちが早くなじめるように話しかけてくださり、とてもスムーズに活動に溶け込むことができました。

コロナ禍での体育祭では、先輩方の懸命な姿から、学ばせていただくことがたくさんありました。準備では、私たちを手伝ったり、声をかけてくださったりして、とてもスムーズに行うことができました。

1年・2年・3年合同の応援練習では、先輩たちの団結力の強さが、私たちを変えてくださいました。最初は声が小さかった私たちですが、先輩たちの迫力ある応援を見て、赤白青のどの組も、だんだんと応援の声が大きくなっていきました。教室での応援練習では、どのクラスからも、応援の、元気で楽しそうな声が、廊下に響くようになりました。本番では、いままで見たことのないような盛り上がりを目の当たりにしました。先輩たちは、準備の段階から本番まで、私たちをリードしてくださり、私たちを支えてくださったのです。

あの体育祭は、先輩たちがいてくださったからこそ成り立ったものです。体育祭後も私たちの間では、「応援、とても楽しかった。」という声が絶えませんでした。3年生の皆さんが盛り上げてくださったからこそ、私たちみんなが『楽しい』と思える体育祭になったのだと感じています。

たくさんの面で支えてくださった、私たちのあこがれの先輩も、今日で卒業です。本当ならもっと一緒に過ごし、もっともっとたくさんの思い出を築き上げることができたのではないかと思うと、とても残念ですが、この2年間で先輩方から学ばせていただいたことは、数えきれません。本当にありがとうございました。

4月から、私たちは3年生になります。今までのように私たちを導いてくださる先輩方は、もういません。田奈中学校で先輩方とともに学んだ2年間は、私たち在校生にとって、とても得がたい経験であり、先輩方は、私たちの誇りです。

今、先輩方は、夢と希望を胸に抱いて、新しい世界に羽ばたこうとしています。どうか、その夢と希望を持ち続け、田奈中学校で学んだことを糧に、ご活躍ください。

私たち、在校生も、先輩方の築いた、明るいあいさつの飛び交う、温かで穏やかな田奈中学校の伝統を受け継ぎ、後輩の見本となるように精一杯、精進します。また、いつでも田奈中学校に遊びに来てください。お目にかかるのを楽しみにしています。

最後になりましたが、在校生全員の気持ちです。

卒業生の皆さん、本当に、本当に、ありがとうございました。これからの皆さまのご健康と、ご活躍を、心からお祈り申し上げ、卒業生に贈る言葉といたします。

令和4年3月9日

在校生代表